

お知らせ

記者発表資料	平成31年1月30日
配布日時	16:00

■同時発表先：合同庁舎記者クラブ、広島県政記者クラブ、中国地方建設記者クラブ



平成30年度 中国地方における**重点「道の駅」**の選定について
 ～地方創生の核となる「道の駅」の優れた取組を応援します～

「道の駅」は、地方創生を具体的に実現していくための極めて有力な手段です。

国土交通省中国地方整備局においても、関係機関と連携して、地方創生の核となる特に優れた取り組みを選定し、重点的に応援する取り組みを実施しているところです。

平成30年度は、地方創生や地域活性化の拠点の形成等を目指した「道の駅」の新たな設置、又はリニューアル等の企画提案を募集したものです。

この度、有識者等のご意見を踏まえ、全国で15箇所の重点「道の駅」及び14箇所の重点「道の駅」候補が選定されました。

このうち中国地方では^{あきおおたちょう}広島県安芸太田町の^{らいむ}道の駅「来夢とごうち」が**重点「道の駅」**として選定されたのでお知らせいたします。

○次回については、2019年夏頃から、約2～3ヶ月間の公募期間を設定のうえ、選定する予定です。

○なお、具体の公募内容は、今後の「道の駅」の新たなステージに関する有識者からの意見を踏まえ、検討します。

<問い合わせ先>

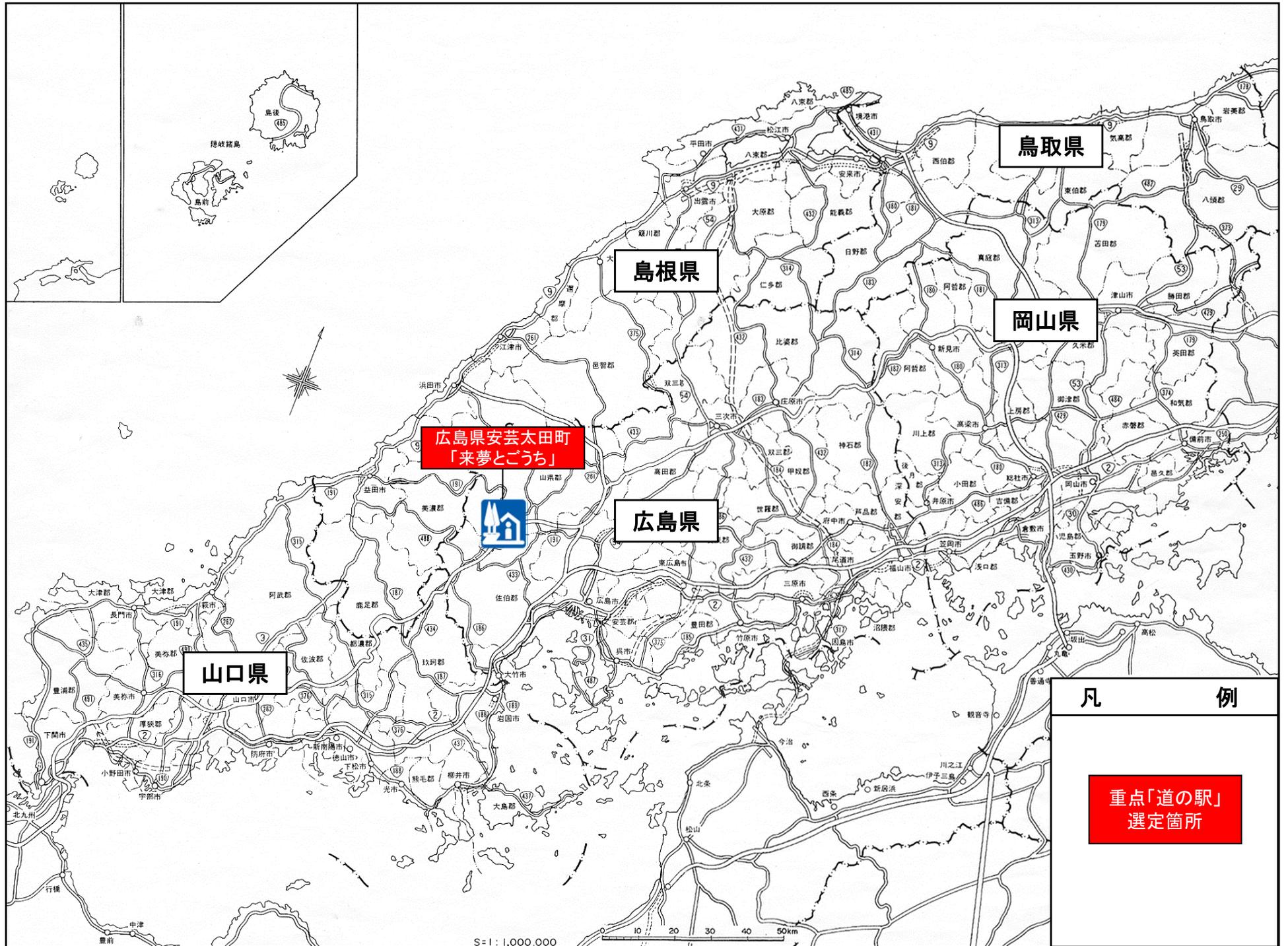
中国地方整備局 082-221-9231 (代表) : (平日・昼間)

道路部 交通対策課長 ^ご後 ^{とう}藤 ^{ひで}英 ^お夫 (内線4511)
【担当】 道路部 交通対策課長補佐 ^{おか}岡 ^{もと}本 ^{しん}慎 ^じ二 (内線4512)

【広報担当窓口】

広報広聴対策官 ^{いわ}岩 ^{した}下 ^{やす}恭 ^{ひさ}久 (内線2117)
 企画部 環境調整官 ^い井 ^{うえ}上 ^{かず}和 ^{ひさ}久 (内線3114)

平成30年度選定 中国地方整備局管内の重点「道の駅」選定箇所



鳥取県

島根県

岡山県

広島県

山口県

凡 例

重点「道の駅」
選定箇所

S=1:1,000,000

10 20 30 40 50km

道の駅「来夢とごうち」(広島県安芸太田町) 企画概要

< 既設 >

- 地域商社による「地域商社機能」「地域DMO機能」「道の駅運営」の三位一体の取組による稼ぐ観光まちづくりの拠点
- 高速道路ICや広島市に近接する立地を活かし、インバウンドを呼び込むためのゲートウェイ機能を強化
- 国際教育を推進している地元高校とチームを組み、インバウンド対応に向けた新たなサービスを創出
- 町の魅力を伝えるショールーム的役割を担うため、周辺の景観、自然へのいざない、人と人との交流の舞台となる「道の駅」を実現



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既存	設置年度	種別
来夢とごうち	広島県	安芸太田町	国道191号	既存	平成7年	単独型

< 道の駅来夢とごうちの目指す方向 >

つながることによる価値創造エンジン

多目的ハブ機能

➤ 「道の駅」でつなぐ

- ・ヒト・モノの導線をつなぐ(物流・交流の結節点)
- ・都会と田舎をつなぐ(自然と癒しの地域パークのメインゲート)
- ・町内の観光地をつなぐ(三段峡・井仁棚田・恐羅漢・温井ダム)

➤ 「道の駅」が関わってつなぐ

- ・広島市等との広域観光連携により世界とつなぐ(インバウンド)
- ・DMOと産品とをつなぐ(一元的ブランディング・プロモーション戦略)
- ・事業者をつなぐ(事業者間・産業界連携・産官学連携)

➤ 「道の駅」をより楽しめる目的地に

- ・来訪者、お客様にやさしい、使いやすい導線
- ・地域の商品、食事のラインナップの充実、休息・遊び・体験の場の整備

➤ 「道の駅」を安芸太田町のまちの魅力を伝えるショールーム

- ・安芸太田町の魅力を伝えるプレゼンテーションの場
- ・リピーターを飽きさせない、新鮮な情報発信をつづける場
- ・新しい来訪者に興味を持ってもらう場

まちの玄関口

わくわく感あふれる自然と癒しの地域パークへの誘い

< 提案の先駆性・ポイント >

- DMO機能を持つ「地域商社」が道の駅を運営し、商品(モノ・コト)開発、プロモーション、観光客の受入を地域の事業者等との連携により実施し、「稼ぐ観光まちづくり」を推進する。
- 広島市を訪れるインバウンド150万人を中山間地域に呼び込むための拠点として機能させる。
- 高速C近傍の立地を活かし、高速バスによる貨客混載での新鮮野菜出荷の拠点を形成する。

< 実施内容 >

- ゲートウェイ機能を強化する道の駅本体及び周辺施設のリニューアル(再配置等)
- 特産品の祇園坊柿等を活用した新規商品開発と既存商品のブラッシュアップ及びプロモーション強化
- 郷土料理、工芸等を活用した体験施設、メニューの整備
- 高速バスを活用した貨客混載での新鮮野菜出荷の拠点として、広島市中心部のバスセンターにおける受け取りの仕組みづくり
- 地元高校生とインバウンドのチームによるインバウンド向けサービスの創出 等

これまでの取組



町内特産品を高付加価値化した「チョコちゃん」



産官学協業で開発した祇園坊柿ジュレート



町内起業者のビジネスモデル実験や新商品試験販売を実施



JNTO認定外国人観光案内所(カテゴリ-1)

【参考】平成30年度 重点「道の駅」選定結果

凡例

- 重点「道の駅」(15箇所)
- 重点「道の駅」候補(14箇所)



【参考】平成30年度 重点「道の駅」選定駅（15箇所）

番号	都道府県	市町村	道の駅名	企画の概要
1	北海道	留萌市	るもい船場公園(仮称)	<ul style="list-style-type: none"> ○高速道路の終点インターチェンジや中心市街地に近接する立地環境を活かし、高速バス、周辺自治体や市内観光スポットに連絡する路線バス等を集約し、交通結節機能を強化 ○シーニックバイウェイ(日本風景街道)や地元高校、農家等と連携し、観光情報発信や商品開発 ○都市公園の環境・施設を活用した子育て環境の創出
2	北海道	弟子屈町	摩周温泉	<ul style="list-style-type: none"> ○道東地域観光の玄関口の役割を担うとともに、多様化する旅行ニーズに対応するため、シーニックバイウェイ(日本風景街道)や周辺自治体と連携することで、観光情報や地域情報の収集・発信を行う広域的な情報発信拠点とする ○インバウンド観光客の受入体制及び情報発信のさらなる強化を図る ○厳冬期の暴風雪害時の一時避難場所として、災害情報提供の強化を行い、防災拠点として機能向上を図る
3	青森県	七戸町	しちのへ	<ul style="list-style-type: none"> ○十和田奥入瀬観光のゲートウェイとして、地域DMOと連携した滞在型インバウンド観光等の商品開発 ○農業体験や民泊ができる旅行商品の開発により、都市部向けの「七戸ブランド」(長芋・にんにく等)の販路拡大 ○子育て世代、若い世代の交流できる環境づくりにより、就業の場の創出、利用しやすい道の駅を目指す
4	茨城県	潮来市	いたこ	<ul style="list-style-type: none"> ○DMOと連携しスポーツツーリズムの取組を通じ、道の駅を拠点とした周辺市への観光の周遊化を図り、インバウンド観光の効果を広域的に活性化させる ○風景街道の利用拠点と道の駅を双方向で誘導させ、地域内でも面的に観光振興を行う ○平常時はもとより、災害時においても、子育て世代の安心と安全を応援する
5	千葉県	柏市	しょうなん	<ul style="list-style-type: none"> ○道の駅を「都市部と農村部とを繋ぐエントランスパーク(入口)」とし、「集客」「販売」「地域の情報発信」を行う ○道の駅に「地域の主要産業である農業を振興」させる機能を強化 ○道の駅で「来訪者の地域交流」を促進する機能の強化
6	新潟県	糸魚川市	能生	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の2つの日本風景街道との連携により、次世代観光拠点の形成やサイクリング拠点化を推進 ○地域・産学連携等により機能充実を図り、地域の核となる「道の駅」に向けた環境整備を実施
7	愛知県	日進市	(仮称) にっしん	<ul style="list-style-type: none"> ○日進市は、子育て世代を中心に人口が増加しており、広い駐車場を備え、気軽に車で立ち寄りやすい道の駅に子育て支援機能を持たせ、子育て支援ニーズ拡大への対応を図る ○DMOが、「道の駅」を拠点に地域の観光情報を集約、情報発信・案内し、地域資源を生かした価値創造へとつなげる ○日進市は、人命救助活動部隊の活動拠点を第2次緊急輸送道路沿いに設置し防災体制の充実を図る ○農業振興計画「田園フロンティアパーク構想(基本計画)」の拠点施設に隣接して整備することで、相乗効果を図る
8	兵庫県	養父市	ようか但馬蔵	<ul style="list-style-type: none"> ○北近畿・山陰エリアの訪日インバウンドに向けたワンストップ窓口機能を設けることで、訪日インバウンドを道の駅から各地へ送客する仕組みを構築するとともに、子育て支援機能を充実させる ○“地域人”養成を目的にした産官学連携を実施し、道の駅を通じて“地域の後継者”づくりを行う

【参考】平成30年度 重点「道の駅」選定駅（15箇所）

番号	都道府県	市町村	道の駅名	企画の概要
9	奈良県	天理市	奈良県国際芸術家村(仮称)	<ul style="list-style-type: none"> ○県内に点在する修復機能を集約化し、建造物や遺跡から彫刻・絵画等の美術工芸品まで修復できる中核拠点を整備 ○修復機能の集約施設に、修復作業を公開・解説する機能や歴史文化資源に触れあう機能、文化財の保存修復に係る伝統的な技術の伝承など人材育成を行う機能を導入し、観光・交流施設に機能を拡充 ○地元農産品を活用した農家レストランやマルシェの設置、伝統工芸品の販売施設なども併設して複合化 ○歴史文化資源に関する国際フォーラム・シンポジウムを積極的に誘致し、地域の強みを生かして県外だけでなく広く国外からのインバウンド需要を呼び込むなど地域の文化資源を活用、国内外への情報発信力を強化 ○風景街道である「山の辺の道」と接続した周遊観光を実現
10	広島県	安芸太田町	来夢とごうち	<ul style="list-style-type: none"> ○地域商社による「地域商社機能」「地域DMO機能」「道の駅運営」の三位一体の取組による稼ぐ観光まちづくりの拠点 ○高速道路ICや広島市に近接する立地を活かし、インバウンドを呼び込むためのゲートウェイ機能を強化 ○国際教育を推進している地元高校とチームを組み、インバウンド対応に向けた新たなサービスを創出 ○町の魅力を伝えるショールーム的役割を担うため、周辺の景観、自然へのいざない、人と人との交流の舞台となる「道の駅」を実現
11	徳島県	三好市	大歩危	<ul style="list-style-type: none"> ○ミシュラングリーンガイド・ジャパンでも紹介されている「祖谷溪」や名勝指定された「大歩危・小歩危」等数々の観光資源の玄関口である道の駅「大歩危」にて、インバウンドに対応した、ゲートウェイ(観光拠点)としての案内機能強化や周遊観光機能整備を図る ○DMO団体、四国風景街道などと連携し地域資源を活かした観光を推進し、周遊・滞在型観光を推進する
12	熊本県	和水町	きくすい	<ul style="list-style-type: none"> ○広域からの玄関口として、周辺観光地と連携して観光情報発信や観光ツアー斡旋等の広域的な観光振興を先導 ○自然の中でのアウトドアスポーツや“いだてん”に因んだマラソン大会開催等家族やグループでスポーツを楽しむ ○子育て世代や高齢者が入浴施設でのリフレッシュ等を通じて集い、交流し地域が支えコミュニティを形成する
13	大分県	由布市	ゆふいん	<ul style="list-style-type: none"> ○道の駅・大分道守会議・日本風景街道が連携した「三つの輪」と協働し、交流機会の向上を図る ○子育て支援として、一時預かり機能や授乳室等の整備を図る ○外国人観光客に配慮し、JNTO案内所としての質的向上を図る
14	鹿児島県	奄美市	奄美大島住用	<ul style="list-style-type: none"> ○「奄美大島唯一の道の駅」、奄美大島の観光情報・道路情報等の広域的な情報・更なるサービス向上 ○奄美大島の「国立公園化・世界自然遺産登録」を目指し、増加する外国人観光客対応への機能拡充
15	沖縄県	名護市	許田	<ul style="list-style-type: none"> ○専任ガイド(JNTOカテゴリーⅡ)の配置を行い「道の駅」での観光情報発信の機能充実 ○沖縄自動車道の末端である許田ICに近接する立地を活かし、周辺観光地(美ら海水族館等)へ向かうインバウンドを呼び込むための拠点として、エアポートシャトルとの連携(停留所の設置)。またそれらと周辺観光のための移手段の検討 ○大学からの提案等を得ながら、HPやSNS等情報発信媒体により北部地域の周遊観光や「道の駅」利用者の満足度向上につながる周遊観光、イベント、満空に関する情報を多言語対応にて提供 ○24時間利用可能な授乳室、おむつ交換スペースを設置、子育て支援機能の充実。屋根つき優先駐車スペースの確保等

【参考】平成30年度 重点「道の駅」候補 選定駅（14箇所）



国土交通省

番号	都道府県	市町村	道の駅名	企画の概要
1	群馬県	前橋市	(仮称) まえばし	○官民連携を前提とした新たな整備・運営・維持管理手法を用いた次世代型観光拠点としての「道の駅」
2	埼玉県	行田市	(仮称) ぎょうだ	○行田市内各所に残る歴史を、行田らしい文化、かけがえのない誇りとして継承していく拠点 ○行田市特有の“ものづくり”の文化・技術と、多様な事業者連携による6次産業化と人材育成の拠点 ○様々な機能が集積する小さな拠点として、市民が健康で安心した生活を支援する拠点
3	神奈川県	茅ヶ崎市	(仮称) サザン茅ヶ崎	○県内初の海沿いの道の駅及び湘南地区のゲートウェイとして、地域の魅力を国内外に向けて発信 ○地域産品の強化、産業の活性化や雇用の創出等により地方創生を推進
4	神奈川県	南足柄市	(仮称) 金太郎の ふる里	○道の駅は、「市民協働」、「官民連携」、「地域間連携」の結集による、産業・経済の活性化を目指す拠点 ○東名高速道路大井松田ICと、南足柄市と国際観光地箱根町を連絡する道路を活用し、県西地域のゲートウェイを目指す
5	新潟県	妙高市	あらい	○DMOによる道の駅を拠点とした地域づくり～インバウンド誘客の推進～
6	福井県	美浜町	美浜(仮称)	○JR美浜駅前という立地を活かし、「ゲートウェイ」としての役割を担う「道の駅」を整備 ○人口減少・少子高齢化に伴う地域課題を解決するための「道の駅」を整備 ○子育て交流機能の充実と地元が活気づく産業振興を図る「道の駅」を整備
7	長野県	生坂村	いくさかの郷	○道の駅を拠点に交通ネットワークを充実させ、生活サービスの利便性を図る ○「道の駅いくさかの郷」を駐日ハンガリー大使館認定施設として登録し、次世代観光拠点の形成 ○地元住民との連携による地域資源の活用 ○子育て支援センターや児童館・教育委員会と連携した子育て応援
8	大阪府	河内長野市	奥河内 くろまろの郷	○観光振興の拠点としての機能強化 ○誘客施設としての機能強化
9	兵庫県	丹波市	丹波おばあ ちゃんの里	○舞鶴若狭自動車道と北近畿豊岡自動車道の結節点として、道路・地域情報の総合的な発信拠点 ○丹波野菜や地場産品の販売促進、地産地消の推進による地域経済活性化 ○氷上回廊でのサイクリングの推進によるサイクリストの拠点化 ○快適、清潔、安全のストレスフリーの施設整備運営
10	兵庫県	南あわじ市	うずしお	○世界遺産登録を目指す「鳴門の渦潮」世界に向けて情報発信し、2次交通の脆弱性を解消するなど、周辺地域との連携を強化することで、外国人観光客のニーズに合ったサービスを提供し、インバウンドを促進する ○日本三大サイクリングルートである「しまなみ海道」、「アワイチ(淡路島周遊)」、「ビワイチ(琵琶湖周遊)」及びASAサイクリングルート(四国地方)との広域連携による広域サイクルツーリズムを推進する

【参考】平成30年度 重点「道の駅」候補 選定駅（14箇所）

番号	都道府県	市町村	道の駅名	企画の概要
11	兵庫県	猪名川町	いながわ	<ul style="list-style-type: none"> ○「6次産業拠点化」、「地域拠点化」、「グリーンツーリズム」、「観光拠点化（観光施設・情報発信・体験施設）」を基本方針とし、機能拡大を行い、地域活性化につなげる ○新名神高速道路の整備を契機とし、町民、町外利用者（高速道路利用者）の利用促進 ○官民連携手法（PFI手法）による、リニューアル（移転整備）
12	徳島県	板野町	いたの （仮称）	<ul style="list-style-type: none"> ○板野町は四国88箇所のお寺が3箇所、また近くに1番札所の霊山寺があり、四国全体のお遍路のスタート位置である ○E11高松道・E32徳島道の双方に近い立地を活用し、四国内外から訪れる高速道路利用者の休息機能と四国お遍路のゲートウェイ機能を両立 ○お遍路に関する情報ステーションやシャワー等のおもてなし広場を設け、お遍路の情報と休息サービスを提供する ○四国内に訪れる訪日外国人は大幅に増加しており、外国人お遍路等を対象とした観光案内所を設ける ○地域産業振興、地域福祉、防災施設としての整備と合わせ、内外からの地域活性化の玄関口としての役割を果たす
13	香川県	綾川町	滝宮	<ul style="list-style-type: none"> ○中讃地域の観光のゲートウェイとして観光資源の情報発信機能強化を図る ○インバウンド観光客への体験型観光・周遊型観光の拡大による地域活性化に取り組む ○地元教育機関と連携した商品開発等による地域産業の活性化を推進する
14	長崎県	平戸市	生月大橋	<ul style="list-style-type: none"> ○世界遺産、風景街道・道守と連携し、自然景観を活かした交流拠点施設として整備する ○漁業振興を目指し地場製品の販売強化と新規商品を開発する ○顧客ニーズを捉えたフードコートを設置する

公募概要

- 地方創生や地域活性化の拠点の形成等を目指した「道の駅」の新たな設置、又はリニューアル等の企画提案を公募
- 優れた企画があり、今後の重点支援で効果的な取組が期待できるものを選定

公募期間と選定の流れ

- 平成30年10月5日(金)～10月25日(木)

企画提案書の提出

各地方整備局等から推薦

企画提案の評価・選定
(有識者意見を踏まえ実施)

重点「道の駅」の選定

- 重点「道の駅」は全国で15箇所、
重点「道の駅」候補は全国で14箇所を選定

その他

- 計画的な企画検討を促進する観点から、今後は毎年、公募を実施することを予定

支援内容

<ハード的な支援>

- 道路区域内の駐車場、休憩施設、トイレ、道路情報提供施設等は、社会資本整備総合交付金(直轄国道以外)及び交通安全施設等整備事業(直轄国道)の重点配分等により国交省が支援

<ソフト的な支援>

- 自治体・関係機関による協議会を設け、複数の関係機関の制度の活用等について、ワンストップで相談できる体制を構築。

選定にあたり優先的に評価する事項

- 重点「道の駅」候補からの企画提案
- 以下に関する企画提案
 - ・新たな観光拠点の形成(DMOとの連携、インバウンド観光)
 - ・風景街道・道守との連携
 - ・高速道路との連携
 - ・子育て応援